

新年度のスタートに際して②

浜田小学校の職員として・・・

2019.04.01

No.59

校長 渡邊 幸二

(3) 新しいことへの挑戦に際し

浜田小学校の試みの中身自体は、「授業改善」だったり「生徒指導の充実」だったり、はたまた評価2学期制だったりとそんなに目新しいものではないはずですが。ただその取り組み方(組織・運営)が他にない変わったスタイル(課題解決型・プロジェクト型)だということでしょう。そのために、誰が、どの仕事を担当するのか、これまでの仕事とどう違うのか、どうやって進めればよいのかなど、さまざまな疑問や仕事を進める上での悩みが出ているように思います。

くり返しますが、誰かがその最良の答えを知っているわけではありません。われわれはまさしく「正解のない課題」に取り組んでいるのです。子どもたちの未来がそうであるように、われわれ学校の未来だってどうやればいいのかの答えはありません。前にもお話したとおり、それをアクティブラーナーとして現時点で最も良いと思える方法を選択し実践していくしかないのです。



闇夜の中の「光」

誰しもが不安という海に漕ぎ出さなくてはならないということです。そんな時、心の支えとなるのが先達者の教えだと思えます。卒業式でご紹介しました稲盛和夫氏の著書から拾ってみたいと思います。

まずあの時もお話しましたが、仕事や人生の結果・成果は

人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力

で表すことができるそうです。ということは、今年の浜田小学校の改革の成果もわれわれの考え方×熱意×能力で表すことができるはずですが。

この時、われわれが不安だらけで学校運営にあたりたり授業や行事を進めたりしていたらどうでしょう。おそらく「考え方」「熱意」のあたりの数値は小さいか、最悪マイナスとなるでしょう。稲盛氏は著書「考え方」で次のように言っています。

創造的な領域で仕事をするのは、真っ暗闇のなかを手探りで進むようなものです。そのように先が見えないなか、目標を追い続けるには、闇を照らす「光」が必要です。信念とは、その光のようなものです。

創造的な世界になればなるほど、心のなかに確固たる信念を持っていなければなりません。信念という光があるからこそ、その道をひたすら歩み続け、成功にたどり着くことができます。

それでは、「確固たる信念」とは、どのようなものでしょうか。

みなさんは、教育や自分の仕事に対して「確固たる信念」をお持ちですか？

みなさんがお持ちの信念が、浜田小学校の学校経営の方針や教育目標と一致していれば、せめて教育理念である「じりつ、公益・貢献」にかなり共感できるよくだとありがたいのですがいかがでしょうか。今年度の浜田小学校での仕事に全力で打ち込めそうだったら、「迷いはない」「信念を持っている」と言えそうです。

稲盛氏は「確固たる信念」を「他に善かれかし」という美しい思いだと言っています。

その思い「善」なるや!?

この「他に善かれかし」という美しい思いというのは、おそらく卒業式の式辞で話した「利他」ということにもつながることだと思いのです。つまり、われわれがこれからやろうとしている教育活動や行事、授業が、世のため人のためになるものなのかどうかという判断基準です。浜田小学校流で言うならば、「じりつ(自立・自律)と公益・貢献」に合致しているかどうかということに尽きます。それと一致しているのであれば、何も不安になることはないのです。

もちろんこういった目標や理想と日々の学校運営は違うと言いたい方もいるでしょう。細かなところまで命課され、校長の指示通りに動くことが「善し」とされてきた時代を生きてきたからかもしれません。学校という組織は、校長一人の指示・命令でなんてちゃんと動くはずありません。以前スタバのメニューの話をしました。まさに経営者の思いよりも、従業員の信念が今のスターバックスコーヒーを創ったとも言えるアイデアだったので。何度も言いますが、スタバだろうが京セラだろうが学校だろうがみな同じです。みなさん一人ひとりがラストマンとして、職員のみなさん自身が自ら考え、主体的に行動する人間として一歩前へ進むしかないと思うのです。

この「善なる思い」を秘め、今年一年、みなさんのお力で浜田小学校を素晴らしい学校に育てていていただきたいと思ひます。



PROGRESS

作詞・作曲：スガシカオ

ずっと探していた 理想の自分って
もうちょっとカッコよかったけれど
ぼくが歩いてきた 日々と道のりを
ほんとは“ジブン”っていうらしい

ねえ ぼくらがユメ見たのって
誰かと同じ色の未来じゃない
誰も知らない世界へ向かっていく勇気を
“ミライ”っていうらしい

世界中にあふれているため息と
君とぼくの甘酸っぱい挫折に捧ぐ…
“あと一歩だけ、前に進もう”